



## ～ Time is Treasure ～

※「第2号」に引き続き、今回も市内の学校で実践している好事例を紹介します。

発行：働き方改革プロジェクトチーム  
 栃木市教育委員会事務局  
 教育総務課教育政策係  
 電話：0282-21-2467  
 FAX：0282-21-2689  
 Email：kyoumu02@city.tochigi.lg.jp

## 部屋小学校

「業務の削減」や「業務の効率化」のために、こんな取組をしています！

取組紹介

### 働き方改革\*コロナ対策\*GIGAスクール構想=デジタル化 → 教育DXへの第一歩！

本校は、「発想の転換」の取組を実施中です。「発想の転換」とは、今までの方法を上記タイトルの「働き方改革\*コロナ対策\*GIGAスクール構想=デジタル化」として、すべてリンクさせて考えることから始まります。そこで、本校でのこれまでの実践取組を以下に紹介します。

#### 1 「さくら連絡網」アプリの活用

健康チェックはもちろんですが、避難訓練や引き渡し等でも活用しています。県費教職員が時間や場所を問わず、状況を共通理解できます。もちろん、土日の感染状況・事故等の把握もしているので、休日明けの月曜日の対応が落ち着いてできています。他にも、個人面談時刻設定をはじめ、様々なことに活用しています。



#### 2 GIGAタブレットの活用

毎日持ち帰りを行っていることが働き方改革につながっています。

- (1) Teamsの活用…オンライン授業は当然として、共同編集機能で学習を進めたり、連絡帳として活用したりしています。先日の「6年生を送る会」では、4年生がPowerPointで式次第を作成し、大型ディスプレイに映し、進行の5年生が操作を行いました。これにより担任の指導時間の短縮につながりました。また、小中一貫教育等でもファイルを共同編集し、活用しています。情報の共有化が即時にできるので、圧倒的な時間短縮につながっています。
- (2) OneDriveでのOnly One作戦…授業での自分の作品やパフォーマンス等(動画、画像、音声、ワークシート)をOneDriveに保存し、持ち帰ったタブレットで児童が自宅で保護者に直接説明します。ホームページでは概略しか伝わりませんが、学校や授業の様子を児童自身が直接伝えることで、「うまくいったこと、工夫したこと」や「もう少し取り組みたい課題」を児童が自覚できます。実際に、児童が「おうちの人から『すごいね』ってほめられてうれしかった。」と担任に伝えていました。児童にとっては、自己肯定感を高めることにもつながります。教師にとっては、保護者へ連絡をするための時間短縮になることで本当に連絡の必要な保護者へ集中するための時間がうまれます。OneDriveなので、忙しい保護者は別日でも問題なく確認でき、児童に説明が受けられます。なかなか参観できない通常の授業の様子や成果物を見られるのは、毎日の持ち帰りを行っているからとも言えます。
- (3) 学校評価をはじめ、各種調査でのForms活用…もちろん、他校でも取り組んでいることかと思いますので、説明の必要はないでしょう。

#### 3 職員会議のペーパーレス化

印刷する場合もありますが、基本はペーパーレスで行っています。指定フォルダにPDFとして保存しています。

以上のような取組ですが、課題が明らかになったので、次年度は次のように改善して、負担軽減につなげる予定です。

- ①日課の変更…放課後の時間の創出をするため、清掃や朝の活動の削減をします。
- ②行事時期偏りは是正…リスクマネジメント&バランス！さらに、小規模校化となるため、4・5年合同宿泊学習をはじめ、運動会・修学旅行・宿泊学習の適正時期配置での教職員・保護者・児童の負担軽減につなげます。
- ③各種たよりのペーパーレス化…B4版で発行している学年たより等をA4版PDFにし、さくら連絡網でデジタル配信にします。

※ まだ道半ばですが、本校では今後も「発想の転換」をして働き方改革を実践していきます。



## 部活動の地域移行 Q&A

～学校から地域へ！～

情報発信

○昨今、「部活動の地域移行」が大きな話題となっています！  
ところで… 栃木市はどう考えているの？どう進めていくの？いつから始まるの？  
それらの疑問に、「Q&A形式」でお答えします！

### Q1 まず、「部活動の地域移行」って何？

A1 これまで学校教育で行ってきた部活動を学校から切り離し、地域スポーツクラブ等の団体が運営主体となり、地域で行うスポーツ活動へと移行する改革です。

国は、休日における部活動の地域移行を進めていくことを基本としており、令和5年度から令和7年度までの3年間を「改革推進期間」と位置付けています。

本市においては、3年間を基本としながらも強くこだわることなく、地域の実情に応じて、まずは、休日における運動部活動から段階的な地域移行を進めていきます。

### Q2 部活動の地域移行の目的は何？

A2 「子どもたちに適切なスポーツ環境を確保すること」と「教職員の負担軽減を図ること」が主な目的です。

### Q3 市内全中学校の運動部活動を全て地域移行するの？

A3 市内全ての運動部活動が地域移行の対象となります。

### Q4 学校から部活動はなくなるということ？

A4 学校における教育活動としての部活動から、地域におけるスポーツ活動になります。つまり、主体が学校から地域に移るので、将来的には学校から部活動がなくなるということです。

### Q5 新聞で、「栃木市運動部活動の地域移行検討会議」の記事を読んだけど、どんな会議？

A5 校長会やスポーツ団体、PTA等の関係機関の代表者と市職員で構成する会議です。学校へのアンケート調査の結果分析や推進における課題・対策の検討、モデル事業の具体的な取り組み内容の検討、モデル事業の検証、推進計画の策定等を行います。 ※今年度は、2回開催

### Q6 ところで、「モデル事業」って何？

A6 「吹上中学校」と「大平中学校」の2校をモデル校に、総合型地域スポーツクラブ「栃木スポーツネット」と「とちぎスマイルコミュニティ」の2団体をモデル団体に指定し、令和5年度から連携した取組を進めていく予定です。開始時期としては、3年生が引退して新チーム体制の活動となる9月を予定しています。これらのモデル事業を通して、学校と地域の連携や受け皿となる人材の確保等の課題を整理し、本市における円滑な地域移行を進めていきます。

### Q7 地域移行は休日だけなの？

A7 将来的には、平日を含めた地域移行を目指しますが、まずは、休日の地域移行から推進し、その進捗状況を検証した上で、平日の地域移行に取り組んでいきます。

### Q8 教職員は、地域のスポーツ活動に関われるの？

A8 地域スポーツ活動の指導を希望する教職員は、地域団体の業務に従事することになるので、教育委員会から「兼職兼業」の許可を得ることが必要です。許可が得られた場合は、地域スポーツ指導者として、報酬を受けて指導を行うことができます。

### Q9 文化部は地域移行しないの？

A9 文化部活動についても、地域移行に取り組んでいきますが、まずは、運動部活動の地域移行を先行実施し、その研究成果を生かして、休日に活動している吹奏楽部などの文化部活動の地域移行を進めていきます。

### Q10 地域の指導者はたくさんいるの？

A10 市内13中学校には、約140の運動部活動があります。そのため、現時点では、全ての運動部活動において、休日の地域移行を進めていくための指導者を十分に確保することは困難な状況です。今後、関係課や学校、地域スポーツ団体等と連携し、専門性や経験を有する人材の確保に努めていきます。

学校・保護者・地域としっかり手を携えて、  
**着実に**進めていきます！

